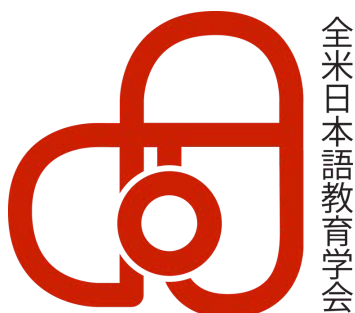


AATJ NEWSLETTER

全米日本語教育学会 American Association of Teachers of Japanese



Message from the President

TOMOKO TAKAMI



In this issue...

**OFFICER
MESSAGES**

**2022 ACTFL
AATJ
ANNUAL FALL
CONFERENCE
REPORT**

**AWARD
RECIPIENT
MESSAGES**

**WEBSITE
RENEWAL**

**JUNIOR
JAPAN BOWL**

**NATIONAL
JAPANESE EXAM**

AND MORE!

I am writing this, my last message in the newsletter as the AATJ President, with exuberance after just returning from the ACTFL Convention in Boston. Like the coming of spring after a long hard winter, we finally had the chance to come together after COVID-19 separated us and prevented us from sitting next to each other. I am sure that this conference was an unforgettable and extraordinary experience for each and every one of us. It was undoubtedly a long-awaited celebration of our professions and a great reunion. While COVID-19 has taught us that virtual conferences and meetings are possible and have their advantages, the 2022 ACTFL Convention has made us re-realize the meaningfulness of direct communication and face-to-face interactions. I would like to express my special thanks to our dedicated Fall Conference Co-Directors, Takayuki Masai-sensei, Junko Tokuda-sensei, Yuko Prefume-sensei, and Jamie Tateyama-sensei, who worked meticulously and tirelessly to make this conference a reality.

During the conference, we recognized the recipients of the 2022 AATJ Teacher Awards, Kei Tsukamaki-sensei and Izumi Matsuda Kiami-sensei. In addition, we also presented the 2022 AATJ Lifetime Achievement Award to Kazuo Tsuda-sensei. Congratulations to all!

Over the last four months, critical updates have been made. A Colorado lawyer reviewed the proposed revision of our Bylaws, and its final version is being prepared to be presented to the AATJ members again for voting early next year. My heartfelt appreciation to the Revision committee, our past presidents, Ann Jordan-sensei, Junko Mori-sensei, Motoko Tabuse-sensei, Joan Ericson-sensei, and our current DEI Director, William Matsuzaki-sensei, for taking on this crucial task that required significant time and patience.

In reflecting on the AATJ in 2022, I have realized that we have been making great changes. With this year being the 10th anniversary of AATJ's founding and the start of greater COVID-19 control, we are starting to think about AATJ's future and its path toward becoming more sustainable, healthy, stronger, and beneficial to our members. A crucial change in the Bylaws revisions will help expand the AATJ leadership to embody greater diversity and inclusion. More discussions are being held on what lies in the future of the AATJ office and how to facilitate smoother transitions between leadership. Such conversations have already started and are scheduled to be continued in 2023 by President Shingo Satsuani and President-elect Yoshiko Mori. I, myself, will be staying in office as the Immediate Past President, and I am thrilled to work with them and Vice President Mieko Avello.

Please allow me to take this opportunity to thank my fellow executive officers, Ann Jordan-sensei, Shingo Satsutani-sensei, Mieke Avello-sensei, Executive Director Susan Schmidt, as well as every other director. They are my “AATJ Family,” whom I have communicated with more than my own family throughout the entire year. I would also like to thank the many past presidents whom I have contacted with questions and for seeking advice. I only joined ATJ 15 years ago, so learning about the evolution of the field and the history of ATJ and NCJLT was extremely helpful. I am humbled to have the remarkable opportunity as the current AATJ President to pass on the legacy of our past leaders to the future leaders of Japanese language education. I am so thankful for the many opportunities I had to work with such outstanding leaders. Thank you all for your support, guidance, and collaboration – our shared moments of struggle and laughter are part of my overall learning experience and growth in passion for the Japanese language.

Lastly, I would like to share an inspiring moment I experienced this year. Currently, I am teaching Advanced Japanese at the University of Pennsylvania. One of our units is called “Life Story,” and students learn to talk about themselves and their backgrounds. I had the students share about important turning points in their lives. To my surprise, they all spoke about their experiences meeting a particular teacher who encouraged them to face challenges and adversities, believe in themselves, and helped them overcome any obstacles. Through their stories, I re-realized how we, educators, make a difference. I strongly believe that we have the power to face and resolve the many challenges and issues within the field of education. I am proud to be an educator and belong to the AATJ community, where I can work alongside other hard-working educators that I admire dearly. Thank you all for being awesome colleagues and friends!

I hope you enjoy the holiday season and have a wonderful new year! May 2023 bring us wonderful smiles, happiness, and much learning.

AATJ会長としての最後のメッセージとなるこの原稿を、ボストンで開催されたACTFL大会が終わったばかりの高揚感を持ちながら書いています。長い冬の後の春の訪れのように、COVID-19では隣同士に座ることができなかった私たちが、ようやく一堂に会することができました。この大会は、私たち一人ひとりにとって、忘れられない特別な学会となったに違いありません。私たちの学会の結束、待ちに待った再会を祝う学会でもありました。COVID-19では、バーチャルの学会も可能であり、その利点もあることが分かりましたが、2022年ACTFL大会は、対面でのコミュニケーションや交流の意義を再認識させてくれました。この大会の実現に向け、細心の注意を払いながら準備してくださった秋季大会の共同ディレクター、政井孝幸先生、徳田淳子先生、プレヒューメ裕子先生、立山ジェイミー先生、どうもありがとうございました。

大会期間中、2022年度AATJ Teacher Awardの受賞者である塚巻圭先生と松田いずみ先生を表彰しました。また、2022年AATJ Lifetime Achievement を津田和男先生が受賞されました。みなさん、おめでとうございます！

この4ヶ月の間に、AATJでは重要な準備が行われました。AATJ規約の改正については、コロラド州の弁護士に助言をもらい、さらに変更がなされました。最終版を来年再びAATJ会員に提示し、投票する準備が進められているところです。改訂委員会、歴代会長のアン・ジョーダン先生、森純子先生、田伏素子先生、ジョーン・E・エリクソン先生、そして現DEI理事の松崎ウィリアム先生には、多大な時間と忍耐を要するこの重要な仕事を引き受けていただき、心から感謝しています。

AATJの2022年を振り返ってみると、私たちがとても大きな変化の途にあることを実感しています。AATJの創立10周年であり、COVID-19の収束の兆しも見え始めた今年は、AATJの将来、どのように学会をより持続可能で健全、強力で、会員にとって有益なものにできるか考え始めました。例えば、規約改正の重要な変更点は、AATJのリーダーシップを拡大し、より多様性と包括性を強め実践することにあります。



また、AATJ事務局の将来、次世代のリーダーシップの育成、より円滑な交代について、さらに議論を重ねています。このような話し合いは2023年度も札谷新吾会長と森美子次期会長によって引き継いでいられる予定です。私自身は前会長としてAATJのオフィサーの一員として留任し、お二人とアベロ美恵子副会長と一緒にAATJを盛り上げたいと考えています。

この場をお借りして、役員のアン・ジョーダン先生、札谷新吾先生、アベロ美恵子先生、AATJオフィスのスーザン・シュミットさん、そしてディレクターの皆様にお礼を申し上げます。皆さんは私の「AATJファミリー」であり、一年を通して自分の家族以上にコミュニケーションをとってきた人たちです。また、質問や相談にのっていただいた歴代会長の先生方にも感謝します。私がAATJの前身の一つであるATJに入会したのはたった15年前で、分からないことも多々ある中、米国の日本語教育の歩みやATJとNCJLTの歴史についていろいろ教えていただき、大変助けていただきました。会長となり、先輩のリーダーの先生たちから受け継いだAATJを未来の日本語教育のリーダーの先生方たちに繋いでいくという重要な責務に、改めて身の引き締まる思いがします。そして、AATJで素晴らしいリーダーの方々と一緒に仕事をする機会をいただいたことに、とても感謝しています。皆さんと一緒に苦労や笑いを共にし頑張った時間は、私の日本語教育に対する情熱と学びの経験の大きな一部となっています。ご指導やご協力・ご支援をいただきまして、どうも有難うございました。

最後に、今年私が経験した感動した出来事の一つを紹介したいと思います。現在、私はペンシルバニア大学で上級日本語を教えています。その中で「ライフストーリー」というユニットがあり、学生たちは自分自身や自分の経験について詳しく話す練習をしました。その際、学生たちに人生の重要なターニングポイントについて話す課題を出しました。驚いたことに、学生全員が、ある先生との出会いのおかげで、困難や逆境に立ち向かい、自分を信じ、困難を乗り越えることができたという体験談を話したのです。私は、学生たちの話から、私たち教育者がいかに学生の人生に影響を与えているかを再認識し涙しました。教育現場にはまだまだ多くの課題や問題がありますが、私たちはその課題に共に立ち向かい解決する力があると私は強く信じています。私は自分が教育に携わっていること、そして私が心から尊敬するみなさんと共に学びあえる、頑張りあえるAATJのコミュニティの一員であることを誇りに思っています。皆様、素晴らしい仕事仲間・先輩・友人でいてくださって、有難うございます。

もうすぐ楽しいホリデーシーズンがやってきます。どうぞ素晴らしい新年をお迎えください。2023年、たくさんの笑顔と幸せ、そして多くの学びが私たちにもたらされますようにお祈り申し上げます。



Message from the Vice President

MIEKO AVELLO

今年も残すところ1ヶ月となりました。副会長に就任して約一年弱多くの皆さまからご支援ご指導いただき会長のサポートをさせていただくことができました。誠にありがとうございます！

9月に全米日本語教育学会最優秀教師賞(AATJ Teacher Awards)の選考が行われました。今年も受賞候補者として素晴らしい先生方に恵まれました。全米各地でご活躍の先生方を推薦して下さりました先生方にもAATJ役員一同心から御礼申し上げます。引き続き、2023年のAATJ Teacher Awardsへのご推薦をよろしくお願いいたします。

11月18日から20日までボストンで行われたACTFLでの秋の学会では多くの先生方にお目にかかることができ、バーチャルでは味わえない高揚感に包まれました。3年ぶりの対面でのローカルアフィリエイトミーティングには各地域の教師会から役員や会員の皆さまがご出席してくださり、様々な課題や現状について活発な意見交換ができました。また、今年度は2度地方教師会同士の繋がり強化促進のためズームによるミーティングも開催しました。来年度も続けてこのような交流の場を設けたいと思っていますのでご協力していただければ幸いです。

来年度も一人でも多くの先生方のお声に耳を傾けお役に立てますように精一杯尽力させていただきますので、お力添えをくださいますようお願い申し上げます。

時が経つのは早いもので次期会長として最後のご挨拶となるニュースレター発刊となりました。2年間の副会長期間中は新型コロナ感染症パンデミックと完全に重なり、次期会長期間も先生方に直接会う機会もない極めて少ない中で終わろうとしています。終盤になってACTFLが対面となりアメリカで日本語教育にかかわる方々と直節お会いする幸運に恵まれ、その大切さと嬉しさをひしひしと感じました。ACTFL参加教師が想定を超える大多数になったことは、直接会って会話や笑いや身振り手振りを共有できることの大切さの証でもあります。



Message from the President Elect

SHINGO SATSUTANI

日本への入国制限が緩和され、日本語学習者にとって日本訪問が魅力的になる日がまたやってきました。パンデミック前には定期的に生徒や学生を日本へ引率しておられた先生方もプログラム再開にあたってポストパンデミックニューノーマルに即した対応が迫られています。私自身も春は春休みを利用した花見研修、夏は祇園祭を挟む一か月間のホームステイ京都プログラムを実施していますが、このニュースレターを発刊する時点ですでに2023年は定員に達しています。これは日本や日本語に興味があって訪日したい学生が想定以上に多いことを物語っています。やはり、日本語学習者にとって訪日体験は欠かせない学習の一部であることでしょうか。

2023年のAATJ春学会も今回は一旦パンデミック前の対面方式に戻して3月16日（木曜日）にボストンで開催することになっています。参加登録などのプログラムの詳細は学会からの案内メールをお待ちください。週の半ばで参加しにくい開催日ですが、ぜひご参加ください。

AATJ主導のオンラインでのウェビナー、座談会などはパンデミック期間中の経験を活かしながら継続してまいります。傘下の各地域教師会のオンラインセミナーなどの予定がありましたら僕またはAATJ本部までご連絡ください。AATJのホームページのカレンダーにも付け加えたいと思います。また、日本語教育関係の様々な情報には目を配っていますが、拡散が妥当な情報がございましたら、フェイスブックやツイッターなど活用して協力させていただきますので、こちらの方もご遠慮なくお申し出ください。

パンデミックのどさくさに紛れて教師の定年退職や教師不足を理由に各地で日本語プログラムを縮小、廃止しようとする学校区や教育機関があるようです。そのような学校区の関係者に対しては国際交流基金や管轄日本国総領事館と連携しながらAATJとして日本語教育の重要性を訴えながらプログラム継続をお願いする正式なレターを準備するなど可能な限りの応援をしています。また、逆に日本語教育が盛んになりつつある地域がありましたら、こちらもその現況を全米の日本語教育関係者みんなで情報共有していきたいと思っています。

AATJとして今後も引き続き安定した信頼できる組織として、また皆さんに積極的にかかわっていただけるような組織として発展していくために学会約款 (By-Law) を改定改善し、副会長を2人（K-12担当と大学担当）を選出し様々な仕事を分担していくことを目指します。また、改定学会約款ではアドボカシー担当もネットワークを充実させるべく2人（K-12と大学）任命することになっています。

2024年にはアメリカでは2006年に次いで2度目となる国際日本語教育学会 (ICJLE) 大会をウィスコンシン大学マジソン校で対面で行いながらオンラインでも一部参加できるような形で開催いたします。K-12関係に関しては僕と副会長のアベロ先生が担当します。是非、ご意見をお伺いしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

さて、個人的には春学期は対面授業に加えてパンデミック期間中の経験を生かしてオンラインクラスも復活させ、スプリングブレイクには15人程度を京都花見研修へ引率予定です。私人としての僕ですが長女は全米フィギュアスケート中部アメリカ大会への出場を果たしたことで来シーズンも文武両道が続け、次女は自称「芸術家」として絵を描きながらデジタル芸術にも手を出すそうです。相方は作家としてKADOKAWAを始めいくつかの出版社から締め切りに追われているようです。最近は自らの小説の漫画化や外国語化も進んでいるようです。

地方の教師会に属していらない先生方やAATJの傘下に入っていない教師会の先生方のお話も聞かせていただきたいので satsutan@cod.edu までいつでもご連絡ください。

Annual Fall Conference 2022

TAKAYUKI MASAI, YUKO PREFUME,
JAIME TATEYAMA GUSMAN & JUNKO TOKUDA SIMPSON
FALL CONFERENCE CO-DIRECTORS

The 2022 AATJ Fall Conference was held from November 18th through the 20th, in conjunction with the American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) Annual Convention and World Languages Expo. The format this year was hybrid, and approximately 270 Japanese teachers registered for the convention. There were 10 AATJ-sponsored sessions (45-minute) and four paper sessions (total of 12 papers, three 15-minute paper presentations per session), in addition to 6 pre-recorded sessions. Pre-recorded sessions will be available to view until February 28, 2023 [at this link](#). The program of AATJ-sponsored and Japanese-related sessions is still available on the AATJ website, [here](#).

We were really happy to be able to see each other in person this year during the convention. In the Exhibition Hall, Japan-related organizations and companies, including publishers, bookstores, the Northeast Council of Teachers of Japanese (NECTJ), and Movement for Language and Culture (MLC) joined us at the Japan Pavilion. This year, thanks to the support from the Japanese Language Teachers' Association of New England (JLTANE) and the Northeast Council of Teachers of Japanese (NECTJ), we were able to host three hands-on activities (Dialect Project, Chigirie Obento, and Suminagashi) at the AATJ booth. Many people participated in these activities, and we really would like to express our gratitude to all the task force members for helping carry out the activities with great success. The task force members shared the following reports and links with us. We hope that you can utilize these resources in your class activities.

Reports from ACTFL 2022 Task Force Members

世界の日本語・方言教材協働プロジェクト

当「[世界の日本語・方言教材協働プロジェクト](#)」は、ACTFL 2022 を機に、様々な言語・文化背景を持つ日本語を話す方々をリソースとしてユニークでかつ多様性を生かした日本語教材作りができないかと、The Japanese Language Teachers' Association of New England (JLTANE) と The Northeast Council of Teachers of Japanese (NECTJ) の有志で企画されたものです。

プロジェクトの目的は、皆様がお育ちになった地元、またはゆかりのある地域で話されている日本語で、『私の街に来ませんか』と題して、ご出身地、またはゆかりのある街のアピールをしていただき、それらをコレクションとして制作、オンライン上で共有の日本語教育教材(OER)として公開することです。今後も広くデータを収集して行きます。ぜひご参加ください。

ちぎり絵体験と和食育「お弁当」を考えるプロジェクト

このハンズオン活動は、ちぎり絵という伝統的な和紙を使った貼り絵によってお弁当を作り、言語教育への応用を考えてもらうという企画でした。日本語に限らずいろいろな言語の先生方が参加してくださいました。和紙の持つ日本の色やそれをちぎることから生まれる柔らかい形などを体験し、また誰のためにどんな食べ物を詰めるかなど考えながら色紙、絵はがき、しおりに思い思いのお弁当を作成してもらいました。

On Saturday, AATJ hosted its Annual Teacher Awards Luncheon, and approximately 80 people attended. The luncheon began with welcome remarks from AATJ President Tomoko Takami, followed by remarks by AATJ's guests of honor: Mr. Kotaro Suzuki from the Consulate-General of Japan in Boston and Director Yasuko Uchida from the Japan Foundation Los Angeles.

During the luncheon, AATJ presented this year's Teacher Awards to Ms. Kei Tsukamaki (Juanita High School, Kirkland, WA) in the K-12 category and Ms. Izumi Matsuda-Kiami (University of Washington, Seattle, WA) in the College and University category. Also, this year, the AATJ Lifetime Achievement Award was announced during the luncheon, and Mr. Kazuo Tsuda from the United Nations International School (retired) received the award. We received generous prizes for the award recipients from the various sponsors. (Please see the ACTFL 2022 Sponsors' List at the end of this article.)



Saturday night, AATJ hosted a general membership meeting from 7:30 to 9:30, and over 50 AATJ members attended. This event began with welcome remarks from AATJ President Tomoko Takami, followed by remarks by AATJ's guest of honor Director Yasuko Uchida from the Japan Foundation Los Angeles. Announcements and reports were also shared by AATJ directors and representatives. (Presidents' reports, Membership, Advocacy, Nengajo contest, National Japanese Exam, AATJ Fall Conference, and AATJ Spring Conference, Aurora Foundation, and Cheng & Tsui Professional Development Grants.) The recipient of the AATJ Lifetime Achievement Award, Mr. Kazuo Tsuda, shared his life story with the participants, and we were all moved by his journey and heart for Japanese education.

The pandemic started suddenly in March 2020 due to the COVID-19 crisis, and educators and students all went through difficult times. As a special addition this year, AATJ Fall Conference Co-Directors collected some voices from students all over the United States, and made a short video, titled "日本語が私に与えた影響." Students expressed how learning Japanese influenced their lives, and the video reminded us that teaching is such a rewarding job to be able to make such a difference in the lives of young people. Then, we recognized and honored the AATJ officers and directors who would complete their term at the end of this year or completed their term during the past online

Conference Attendees Group Photo



Door Prizes from Generous Donors

ACTFL 2022 Sponsors' List

Teacher Award

Japan Foundation Los Angeles
JPT America, Inc.
Kodansha USA Publishing, LLC
Lighthouse
Movement for Language and Culture, Inc.
Sanshusha Publishing Co., Ltd.
3A Corporation

Door Prize

Japan Foundation Los Angeles
Kinokuniya Book Stores of America Co., Ltd.
Kintetsu International Express (U.S.A.), Inc.
Lighthouse
Movement for Language and Culture, Inc.
The Japan Times Publishing, Ltd.
Kyoto Convention & Tourism Bureau
Hyogo Convention & Tourism Bureau
Nara Convention & Tourism Bureau
Wakayama & Tourism Bureau
Osaka Convention & Tourism Bureau
Anonymous Donor

Call for Proposals ACTFL 2023

The 2023 AATJ Annual Fall Conference will be held during the annual convention of ACTFL, which will take place from Friday, November 17, through Sunday, November 19, 2023, in Chicago, IL. The submission deadline for proposals is Friday, January 27, 2023 at 11:59pm, Eastern Time. We look forward to seeing you again next year!

[Call for Proposals: 2023 Annual Convention and World Languages Expo](#)

If you want your session or paper presentation to be considered for a part of the AATJ program, please pay attention to the following two points in the ACTFL online proposal submission form:

1. Please choose "Japanese" under "Applicable Language."

***Applicable Language**

Select the primary language that is most applicable to the content of your presentation: (Select One)

Japanese

2. For Question 2 under "Other," please choose "Not Applicable (N/A)." If you choose one of the ACTFL Special Interest Group (SIG), your proposal will be reviewed by the SIG first. Once your proposal has been accepted by the SIG, we cannot include your session or presentation in the AATJ program.

***Other**

* 2. If you want your proposal to be reviewed and sponsored by an ACTFL Special Interest Group (SIG), please check one below. If not, select "Not Applicable" (information only used for classification purposes).

☐ Not Applicable

AATJ 2022 Lifetime Achievement Award

KAZUO TSUDA

UNITED NATIONS INTERNATIONAL SCHOOL

AATJのLifetime Achievement Awardを受賞した理由を私なりに考えながら、久しぶりに対面している日本語の先生達の前で過去50年間で4つの項目に分け私的なネジレ変換視点を交えて話をしたいと思います。

第一にAATJのローカル・リージョナルな機関であるNECTJでその会長を所属が中等教育機関であるUNIS(国連国際学校)で小中高の教師として継続して自主的に1992年から現在まで31年間も運営してきたことだと思います。1991年12月7日(日米開戦から50年目の節目の日)にワシントンD.C.に米国側のロシア語教授と中国語教授と日本語側から国際交流基金LAのセンター長の金田所長とATJの会長の宮地教授からの招待で全米から高校日本語教師17名が集められ、全米中等日本語教師会NCSTJの設立が促されました。そこで、日本の英語学習者が百万人で米国の日本語教育の中等教育では、仏西語は百年の歴史ある調査の中で1982年以前に記録すらなく、約6200人という状態でした。90年にやっと1万から2万人になったのです。現在77,000人で大学と合わせると約150,000人です。全米の理事として1992年8月の全米中等日本語教師会の立ち上げに毎月週末には東海岸から西海岸へレッドアイの旅をしました。ACTFLへの参加もSAT II, AP, IBにも関わり、ATJの理事として1998年に選ばれ當作先生と専任理事にスーザンさんを選出しました。

第二に中等教育の機関に正式の職員として迎えられまでに17年を要し、今も国際交流基金で設けられている中等初等教育者に給与支援補助の第一号に指定されたことです。移民的状况でしたので、ニューヨークで200ドル以下の家賃の住居を常に探すことになりました。私のボランティア時代のハイライトの一つは、女性初の国連公使緒方貞子さんに会ったことです。クラスでお子さんたちを教え始めました。ボランティアで自分の教室がなく、空き教室を見つけてから授業をするという状況で、ゴースト・ティチャーでした。又、緒方さんと私の大学の先生である鶴見和子さんは幼い時から柳田國男翁の膝の上に抱かれて育った仲間だったとも聞いていました。私の実情を緒方さんはお子さんを通して知っていたし、鶴見さんとも話されていたようです。79年に給料にはならないが文化コーナーを作りなさいと言う趣旨を入れて資金援助(ソ連政府の国連への一年遅延による利子を利用して)を日本語の本だけでなく、英語で書かれた中国も含めた東アジアの書籍も購入し、カルチャー・コーナーができ17年間学校から無給でありながら教室が持つサバイブをしました。UNHCRの帰りでしょうか、色々な飛行場でよく緒方さんにお目にかかりました。

第三に教師の社会化という課題です。2000年に季節シリーズの第一巻の『春一番』をNPOで自費出版した後、現在までに第二巻の『銀河』と第三巻『秋祭』を出版しました。3つのNPOを作ることになりました。教師はどうしても学校内に留まり、社会から遠い存在となりやすい傾向があります。現在、益々学校が管理体制の巧妙化の中で監視体制が強化されている時、教師の社会化の重要な理由は、①現在の学問はより学際的状况になり、社会の多様性に対応する要請が必須であり、教師もその多様化のもとに、ビジュアル・ピクチャーとエッセンシャル・クエッションを考えレクチャープランを作成しなくてはならないのです。②生徒や家族の流動性に伴い、彼らの個人史の多様性が顕著になってきて、カリキュラムもクラスで一つ作るのではなく、ディファレンシエイトし、一人一人の多様性に合わせたカリキュラム作成が必要になって来ています。③生徒の多様性と共に社会の方も多様化し20世紀後半の哲学の反省から現在の哲学が要請され、ウクライナ侵攻やコロナ禍によって2022年に世界の難民の数は一億人を超えました。この世界的状況下での難民の包摂的支援という課題が出てきました。数年前から私のワークショップの参加者の若い起業家さん達とともにこの課題を克服すべきものとして財団法人を設立し支援していくことになり、それまでの日本の過疎地の教育への支援とも合わせて、又、ウガンダの難民の社会包摂的支援の共同体的関係も加え、新たな活動を起こそうという気運が出てきており、難民-移民-過疎地-継承語とをつなぐ日本語教育のあり方を模索、展開していますし、この受賞によって私の大学院の亡命教授ハンナ・アレントという活動としての新たな運動に必ず繋がると思っています。

第四に私の中に流れる様々な外国との流れです。母方は、戦前から太平洋を越え、母の従兄弟達全員は米国に渡ってきた日米移民の日系人で様々な服従と抵抗の家系史があり、父方は日露貿易で生計を立てていた日本海側の一族でした。父親の兄は三校の校長排撃事件などに関わり大学からパージされモスクワへ渡る別の家系史があります。又、コロンビア大でジョン・デューイに出会い女工の綴り方運動を指導し自立発展論を提唱した鶴見和子さんの弟であり今年亡くなった鶴見俊輔氏とは、私のアメリカ渡米の前夜に鮫鰯鍋を突きながらハーバート大学で最後の米国の国賊となり日本への強制送還を受け以来米国へ入国しないという服従と抵抗の話を聞き、50年後にこのボストンのACTFLで皆さんにこの話をさせてもらいました。私の小学校時代からというか今は亡き先達の服従と抵抗をもって、「探究と表現活動」という課題が形や姿を変え、今ここに立ち、次の変換へと、鶴見さんのいう文化の＜歩き巫女＞的な漂流ができればということで終わらせたいと思います。



AATJ 2022 Teacher of the Year K-12

KEI TSUKAMAKI

JUANITA HIGH SCHOOL, KIRKLAND, WA

I would like to thank the AATJ Teacher Award Committee for the honor of being the 2022 K-12 Teacher of the Year Award recipient. I am incredibly humbled and grateful for this recognition amongst so many colleagues who work tirelessly for their students and programs.

My utmost gratitude to the Washington Association of Teachers of Japanese (WATJ), and my fellow WATJ board members who submitted my nomination. I have been fortunate to be a WATJ board member for 11 of my 12 years as a high school language teacher, and I am so indebted to the collaborative, enthusiastic, powerful community of educators of WATJ. Without WATJ, I truly would not be the person or the teacher I am today.

Through WATJ and AATJ, I have had the opportunity to learn from the greatest 大先生 of our organizations, and I am constantly improving my own practice through the learning I engage in at workshops, conferences, and professional development trainings offered by and for Japanese language teachers. Teachers of other languages frequently comment on how inspired they are by the strength of our Japanese teacher community. We truly are stronger together, and this award belongs to all of us.

The past years have been hard on all of us. As I write this in September, I am filled with the optimism and hope the beginning of the year always brings. I think of the vibrant glee on my students' faces as their brains 'click' onto the new learning and the unfettered joy in the room as together we celebrate every step on their language learning journey. I truly believe there is no more vital and rewarding work than what we as educators engage in, and I am so grateful to be part of this community.

AATJ 2022 Teacher of the Year Post Secondary

IZUMI MATSUDA-KIAMI

UNIVERSITY OF WASHINGTON, SEATTLE, WA

I am truly humbled and grateful to be given this recognition. First, I would like to thank the AATJ Teacher Award Committee to have selected me as the recipient of this year's award. Also, I would like to extend my sincere gratitude to the WATJ (Washington Association of Teachers of Japanese) board members for nominating me for this award. It has been a great pleasure to work with the highly motivated K-16 teachers in the area to learn through professional development opportunities to support our students and advocate for Japanese Language Education in the State of Washington. I feel extremely fortunate to be a member of this tight-knit community of hard-working Japanese teachers.

My teaching journey started in the early 1990s in a small TA office at the University of Wisconsin-Madison, where I studied under the supervision of Prof. Akira Miura and Prof. Naomi McGloin. Since then, I have become part of this enthusiastic Japanese teacher community, and AATJ has supported my professional development throughout. Belonging to the strong teacher community has also enabled me to connect with amazing professors, colleagues, and friends, who mentored and inspired me during my career. Without them, I would not be where I am now, and feel appreciative for their guidance and companionship over the years.

I would also like to express gratitude to my colleagues in the Department of Asian Languages and Literature at the University of Washington for their continuous support. Together we have succeeded to develop a strong Japanese program which attracts hundreds of students yearly and serves many major and minor students.

Lastly, I would like to thank my family for the constant support for all these years, and especially my mother for setting me on the path to become an educator.

AATJ Website Renewal

ANN JORDAN
IMMEDIATE PAST PRESIDENT

Have you noticed anything new in the world of AATJ? じゃじゃ〜ん!

Our website has had a once-in-a-decade makeover. The new site is redesigned, easy to navigate, and features a stunning new logo by Allison Sugahara of Polygon Market and a colorful page design by Alexandra Technologies.

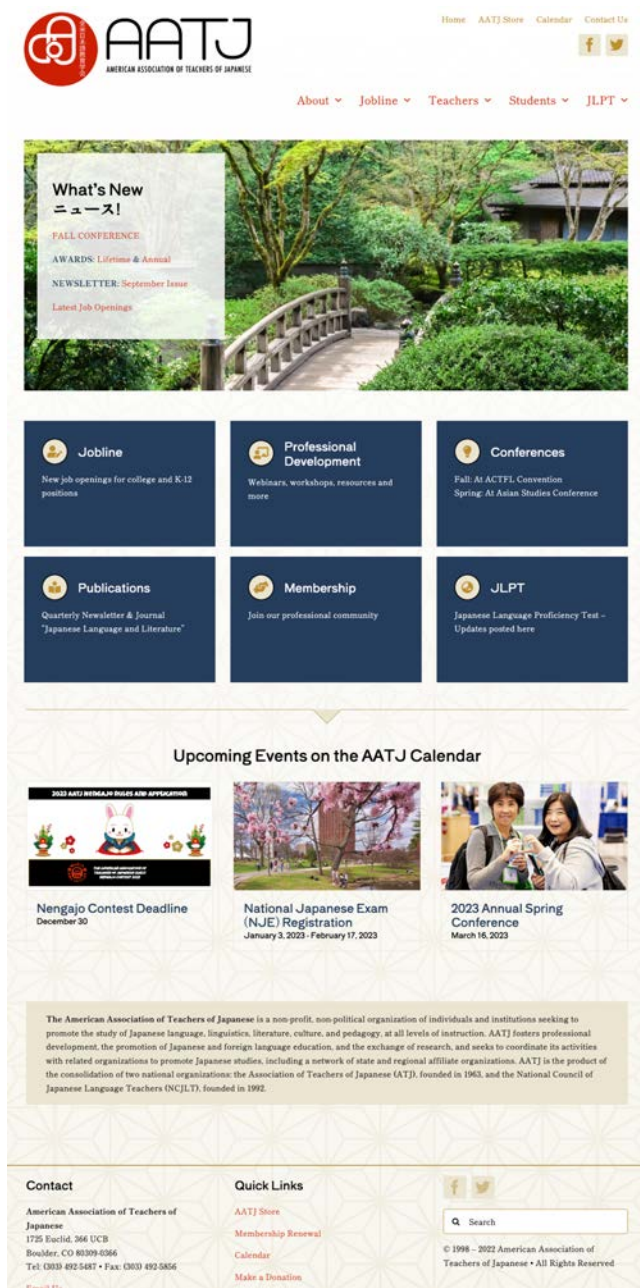
We hope you will find what you are looking for more easily and enjoy the visual elements that are constantly being added to the site. Instead of describing all the new and exciting features, we want to encourage all of you to have fun exploring the website yourselves.

Before we launch into sharing about the new logo, we want to say Otsukaresama to the first logo, now retired. You may not know that the design came from an actual hanko that Masumi Reade sensei ordered when she was visiting Japan sometime before ATJ and NCJLT officially merged to form AATJ in 2012. The previous design, with its traditional vermilion red and kanji style served us faithfully and well, but it was time for a logo that would better reflect visually who AATJ is now and who we aspire to be.



The website was also in dire need of a major overhaul, but we had to start with a logo, because the logo theme and colors would then be expanded into a design for the whole site. So, just about one year ago, the process began with a meeting with the designer, Allison, followed by a few more months of review and discussion of proposed designs with a committee, recommendations to the board, making a decision, and doing a “soft launch” in July with the new logo on t-shirts made for the Advanced Leadership Training participants. The logo took almost as long to get here as a baby!

We love the new logo and we hope you do, too. But you might be wondering...where did the design idea come from? What does it mean? To give you some background on the new logo, we thought we'd let the designer tell you.



Did the AATJ logo project have any special meaning for you, personally?

These days, as my role at Polygon Market has shifted more to Creative Director, I don't put my hands directly on design projects as much as I used to when I first started the company. But this AATJ logo redesign was a special project that I was really excited to take on for many reasons. In particular, the deep family connection to the Japanese teaching community and AATJ. My grandmother and my mother have both played an integral role in the growth and development of Japanese language education, and this feels like my own way of contributing to such an important mission.

(Allison Sugahara is the daughter of Ann Jordan, immediate past president of AATJ and her grandmother, Tei Dacus, started the Japanese program in Salinas, CA)

I've always been drawn to Japanese artwork, culture, and design. Whenever I have the chance to mix my style with my love for Japanese design whether that's in something as personal as decorating my home or designing a logo, I am eager and excited... and possibly a little obsessed. I have always felt Japanese design has a way of looking classic and modern all at the same time, and that is my favorite aesthetic.

Tell us about the kazari musubi or decorative knots design that you came up with for the logo, how it evolved, what it means.

I love the aesthetic of classic meets modern, and I wanted to make sure this logo could stand the test of time. I originally drew inspiration from hanko, but explored other ideas including origami and Japanese knots. Everything within Japanese design and style is done with artistic precision, and I wanted this to be reflected in the concept of tying knots together.

I also wanted to create something functional and easy for any viewer to understand, and after playing with the letters "AATJ", everything really came together.

Lastly, I loved the idea of knots continuously intersecting to create something intentional and beautiful. AATJ is an organization that "fosters professional development and the promotion of Japanese language education" in order to connect people to Japanese language, culture, education, and the like.

My intention was to design a logo that would embody this concept of deep rooted connection and growth in a strong and interesting way. I'm so happy with how it turned out.



AATJ
AMERICAN ASSOCIATION OF TEACHERS OF JAPANESE

NATIONAL JAPANESE EXAM



Registration for the 2023 NJE will open on January 3!

The National Japanese Exam (NJE) is an online, proficiency-oriented, standards-based and culture-related assessment tool, aligned with ACTFL Guidelines. It is for middle school, high school, and college students of Japanese as a second language.

NJE can be used to recognize students' achievements in the study of Japanese and to stimulate their further interest in learning the language.

The purpose of the NJE is to

- Recognize achievement in the study of Japanese language and culture
- Motivate students to further study and explore Japanese language and culture
- Advocate for standards-based, proficiency-oriented, and content-based teaching and learning of Japanese
- Serve as a diagnostic assessment of Japanese language skills
- Increase visibility of Japanese language programs in schools

Voices from students and teachers

NATIONAL JAPANESE EXAM

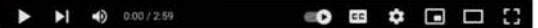
VOICES FROM THE TEACHERS



Click [HERE](#) to watch

NATIONAL JAPANESE EXAM

VOICES FROM THE STUDENTS



Click [HERE](#) to watch

2023 NJE

Registration	01/03/23 – 02/03/23
Late Registration	02/06/23 – 02/17/23
Exam Period	02/22/23 – 04/15/23
Exam Fee	\$10 (Late Registration \$20)

Exam fees can be paid **by the teacher or directly to [AATJ](#) by individual students**



Click [HERE](#) to watch

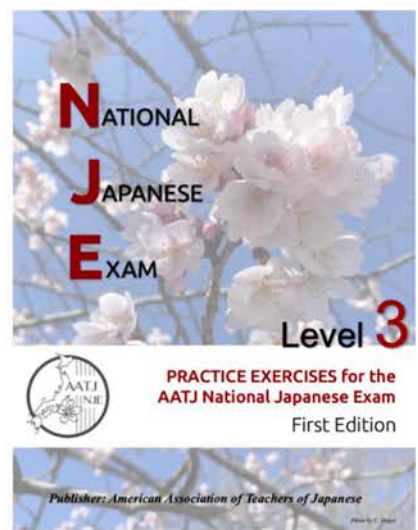
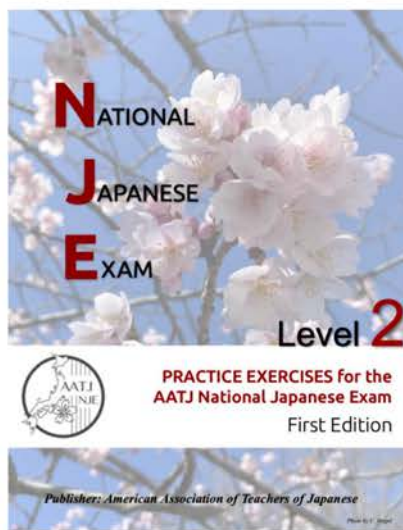
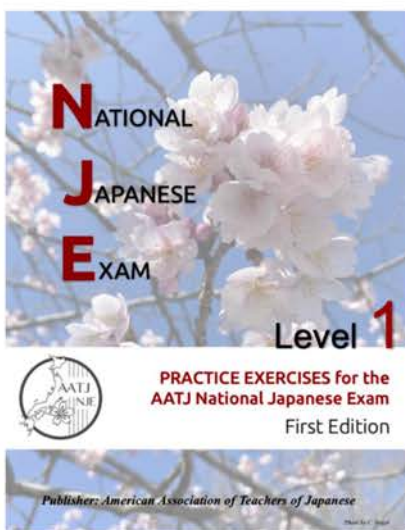
Download flyers [here](#).

For more information, visit our [website](#). Any questions? [Email us!](#)

Practice Exercises for the AATJ National Japanese Exam will be published soon!

NJE 練習問題集は NJE 本試験の受験準備、普段の授業活動にも活用いただけるほか、ティーチングや試験作成の際のアイデアとしてもご参考いただけます。

These exercises are useful for the preparation of NJE, as well as for class activity. They are also an excellent resource for teaching and test making.



ATTENTION ELEMENTARY & MIDDLE SCHOOL TEACHERS! INVITATION TO THE 2023 JUNIOR JAPAN BOWL

全米の小中学校の日本語の先生方へ

小中学生向けの日本語・日本文化全米大会ジュニアジャパンボウルが2023年4月28日にオンライン開催されます。

Kahootで競う参加費無料のアカデミックイベントで、生徒は2～3人のチームで参加します。準備用の教材はすべて揃っていますのでぜひ生徒さんにお知らせください。

また、ご関心のある先生方は、Kahootや教材などを一覧にしたGoogle Sheetがありますので、ご連絡ください。

J-LEARN (Japanese Language Education and Resource Network) cordially invites students in grades one through eight (Gr. 1-8) who are studying Japanese to compete in the seventh annual Junior Japan Bowl (J2B) competition 2023. The 2023 J2B will be held virtually on Friday, April 28, 2023, from 5:30 pm to 8:30 pm Eastern Daylight Time.

Junior Japan Bowl is a team-based academic competition modeled after the National Japan Bowl hosted by the Japan-America Society of Washington DC. In this competition, elementary and middle school students answer questions about the Japanese language, history, and culture in a quiz-bowl format. In 2022, 300 students from 17 schools from eight states competed. Please see below for more information:

- When: Friday, April 28th, 2023
- [Competition Flier](#)
- [What is the Junior Japan Bowl?](#)
- [The L-Learn Website](#)

The Study Guide And The Website Work Best With A Personal Google Account On Chrome.

- [Information Meeting Presentation](#)
- [2023 Study Guide](#)
- CONTACTS: Yuka Ohta, Co-Founder of J-LEARN admin@jcc-gfes.org.

Noriko Otsuka

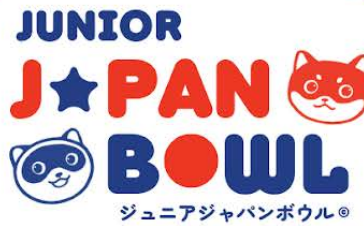
Japanese Immersion Teacher at Fox Mill Elementary School in VA

J-LEARN Executive Committee

AATJ Advocacy Director

nlvankeuren@fcps.edu





Invitation to students in Grades 1-8

小中学生の日本語・日本文化全米大会



ABOUT

Junior Japan Bowl is a national team-based academic competition based on the National Japan Bowl that is held virtually every year for students in Grades 1-8 in the US.

Any student who has not attended a school in Japan where Japanese is the primary language of instruction for more than 2 consecutive years after the age of 6 can compete.



WHEN

Friday, April 28, 2023

- Level 1 (Gr. 1-3): 5:00 pm EDT
- Level 2 (Gr. 4-6): 6:15 pm EDT
- Level 3 (Gr. 7-8): 7:30 pm EDT



WHY COMPETE?

- Join the nearly 300 students from all over the United States who competed in the Junior Japan Bowl 2022 competition.
- Learn about Japan's unique language, history and culture.
- Work with friends to win fun prizes.
- All study materials are ready for you to use at home and at school.



REGISTRATION

Click [HERE](#) to Register by March 31, 2023



RESOURCES

Click [HERE](#) for resources and more information.

Teachers, please contact us to receive the teachers' resources list.



CONTACT

Yuka Ohta: admin@jcc-gfes.org

Junior Japan Bowl is organized by J-LEARN, part of the Japanese Cultural Committee of Great Falls Elementary School. Japan Bowl is a registered trademark of the Japan-America Society of Washington DC.

CHAPLIN MEMORIAL AWARD for Excellence in Japanese Language Teaching

The Hamako Ito Chaplin Memorial Award will again be conferred in 2023, administered through the Association for Asian Studies. In accordance with the wishes of the Chaplin family, each year a prize of \$1,000 will be awarded to either a current graduate student or a full-time instructor of Japanese for excellence in Japanese language teaching at the college-level. A full-time instructor who has completed graduate study within the last 3 years in an area that directly involves Japanese language teaching is eligible to apply. Possible academic fields of specialization include Japanese language pedagogy, linguistics, anthropology, and literature. Current graduate students must demonstrate their intention to enter the teaching field in a North American university. Professor Michiko Kaneyasu (Old Dominion University) serves as Chair of the Selection Committee, Professor Colleen Laird (University of British Columbia) serves as representative of the Northeast Asia Council of AAS for the committee, and Professor George Chaplin serves ex-officio.

Individuals interested in applying (self-nomination) and faculty members interested in nominating an eligible graduate student or instructor (nomination) — should download an application form at the following link:

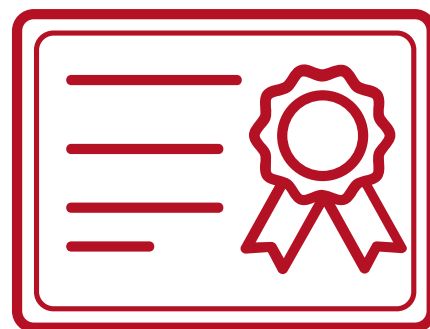
[Hamako Ito Chaplin Award Application 2023](#)

You may also request the application form via email by contacting Dr. Michiko Kaneyasu (mkaneyas@odu.edu).

Completed applications must be submitted to the following email address by January 27, 2023: mkaneyas@odu.edu. The award will be announced in the AAS [#AsiaNow Blog](#).

Persons interested in contributing to the award fund should send their contributions to:

The Hamako Ito Chaplin Memorial Award, c/o Association for Asian Studies, 825 Victors Way, Suite 310, Ann Arbor, Michigan 48108.



2023 Summer M.A. Program in Japanese Pedagogy at Columbia University

The Graduate School of Arts and Sciences (Department of East Asian Languages and Cultures) at Columbia University invites applications for the summer M. A. program in Japanese Pedagogy. The 2023 program will begin on Monday, June 5th and last until Friday, August 4th, during which the following courses will be taught:

I. Three-week Pedagogy Course (6/5-6/23):
- Intermediate/Advanced Japanese Pedagogy

II. 3 MA Courses (6/28-8/4):
- Pedagogical Linguistics I (Syntax)
- Pedagogical Linguistics II (Semantics)
- Pedagogical Linguistics III (Phonetics, Phonology, and Morphology)

Degree candidates may fulfill the requirements for the M.A. degree in three consecutive summers or in any three summers within a period of six years by taking eleven courses and writing an M.A. thesis. The thesis is required to have a focus on a particular area of Japanese pedagogy. Students take courses for six weeks in one summer and nine weeks during the other two summers. The 2023 new M.A. students will take ONLY three M.A. courses this summer (6 weeks, 6/26-8/24).

We also welcome non-degree students for the three-week Intermediate/Advanced Japanese Pedagogy course by non-degree candidates with years of experience teaching Japanese at the college level.

Special Admission Requirements: B.A. or equivalent from an accredited institution in the U.S., Japan or elsewhere, proficiency in English (for native Japanese speakers: 570/IBT88/CBT230 TOEFL or above) or Japanese (for non-native Japanese speakers/ACTFL: Advanced-High or above).

More information is available at the following websites.

<http://ealac.columbia.edu/program/language-programs/japanese/jlp-summerprograms/>
<https://gsas.columbia.edu/degree-programs/ma-programs/japanese-pedagogy>

Application deadline: February 15th, 2023.

Online Application: <https://gsas.columbia.edu/degree-programs/admissions>

Successful applicants will be notified of their admission by the middle of March.

Contact: Shigeru Eguchi
Administrative Director of the 2023 Summer M.A. Program in Japanese Pedagogy
Department of East Asian Languages and Cultures (EALAC) 407 Kent Hall
Columbia University, New York, NY 10027

Email: se53@columbia.edu

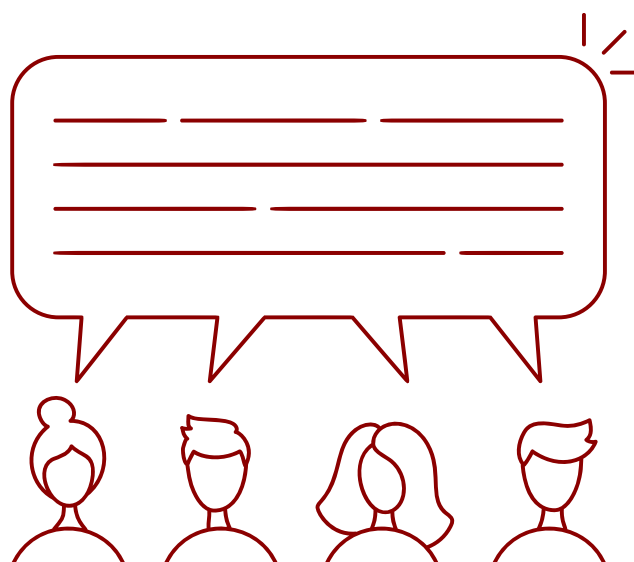


CALL FOR PROPOSALS: Princeton Japanese Pedagogy Forum

The 29th Princeton Japanese Pedagogy Forum (PJPF) will be held in person between May 6-7, 2023. The theme of the Forum is "Introspection and Language Education: What Can We Gain from Introspection?" Ms. Minako Okumura (NPO法人YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち) has been invited to give a keynote speech on this theme.

The Forum invites papers related to the main theme for both pre-college and college level as well as heritage Japanese language and culture education. In addition, we welcome any paper related to Japanese language education in general, including second language acquisition, linguistics, and technology in language learning and teaching, among others.

There will be two types of presentations: (1) oral presentation (20 minutes and 10 minutes of discussion) and (2) poster presentation. When you submit your proposal, please tell us your preference. The submission deadline is **January 15, 2023**. Notification of accepted papers will be sent in February 2023. Please note that an abstract and a paper in the Proceedings should be written in the same language as the one used in the presentation. Accepted papers will be published on the website. If you have any questions, please send e-mail to ssato@princeton.edu.



NEWS RELEASE



**Consulate-General
of Japan in Chicago**

FOR IMMEDIATE RELEASE

Contact: (312)280-0400
Japan Information Center
jic@cg.mofa.go.jp

**The 2021 Foreign Minister's Commendation Award Ceremony
in honor of Ms. Monica Mitsuko Rokuhira**

An award ceremony was held at the Official Residence of the Consul-General of Japan in Chicago for the 2021 Foreign Minister's Commendation in honor of Ms. Monica Mitsuko Rokuhira on Tuesday, November 22. The Foreign Minister's Commendation was presented to Ms. Rokuhira by Consul-General Tajima Hiroshi.

Ms. Rokuhira is a former Japanese language teacher at Langston Hughes Elementary School in Chicago. Langston Hughes Elementary School is one of the few elementary schools in Chicago that provides elementary school students with the opportunity to learn Japanese. She has been recognized for having continuously provided children at the school with opportunities to experience Japanese language and culture for many years, contributing to the promotion of Japanese language and the better understanding of Japan in the local community. She continues to work as a volunteer Japanese language teacher to further Japanese language education by providing support to new Japanese language teachers.

Ms. Rokuhira's friends and former colleagues from Langston Hughes Elementary School attended the ceremony. Consul-General Tajima delivered congratulatory remarks and presented Ms. Rokuhira with the certificate and commemorative gift awarded by the Foreign Minister. Subsequently, Ms. Rokuhira expressed her appreciation in her acceptance address.



Presentation of the Certificate
(Foreign Minister's Commendation)



Group Photo with
Ms. Rokuhira's friends and former colleagues
from Langston Hughes Elementary School

###

JAPAN INFORMATION CENTER

737 North Michigan Avenue • Suite 1000 • Chicago • Illinois 60611

www.chicago.us.emb-japan.go.jp

読む前に

N6

N5

N4

N3

N2

N1

無料の日本語学習者向け多読サイト

「日本語多読道場」のご案内

多彩なトピックの 記事を毎週アップ！

- ☑ 日本各地の情報、グルメ、日本文化、防災、ごみの分別、行事、ことばなど



N1～N6（入門）の レベル別のコンテンツ

- ☑ すべての記事に音声つき
- ☑ 学習者が理解しやすいよう写真を多用



すべて無料で 利用可能！

- ☑ リフロー型で、スマホでも見やすく、どこでも学習できる



QRコード、またはURLより今すぐアクセス

「日本語多読道場」 <https://yomujp.com>☆公式 Twitter ☆ <https://mobile.twitter.com/yomujp>

▲サイトの執筆者も随時募集中！
上記サイトよりお問い合わせください

くろしお出版 Kurosio Publishers

〒102-0084 東京都千代田区二番町 4-3

Tel: 03-6261-2867 Fax: 03-6261-2879 www.9640.jp

JAPANESE LINGUISTICS & LITERATURE GRADUATE STUDIES UNIVERSITY OF HAWAI'I AT MĀNOA




COMPREHENSIVE CURRICULUM

Master of Arts in Japanese

- Course work (30 credits)
- Capstone Paper or MA Thesis

PhD in Japanese

- Course work (24 credits)
- Qualifying Exam
- Second East Asian Language
- Comprehensive Exam
- Dissertation



Our graduate program is the largest of its kind in the country and offers a curriculum unparalleled in its breadth and scope. With the vast resources available locally and globally, including our broad alumni network, our graduate program is a leading institution for scholars and practitioners of Japanese linguistics and literature.

FACULTY EXPERTISE

Literature Faculty

- Andre Haag (Modern)
- Pier Carlo Tommasi (Classical)

Linguistics Faculty

- Haruko Cook (Sociolinguistics)
- Atsushi Hasegawa (Pedagogy)
- Kazue Kanno (Syntax)
- Dina Yoshimi (Pedagogy)

RESOURCES & OPPORTUNITIES

Graduate assistantships and other scholarships are available for qualified students. Become a part of UH alumni network that extends throughout the United States and beyond!

Any questions? Please contact...

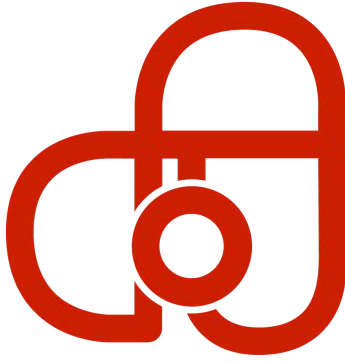
Literature: Andre Haag (andreh@hawaii.edu)

Linguistics: Atsushi Hasegawa (atsushih@hawaii.edu)



Department of East Asian Languages and Literatures
1890 East-West Road, Moore Hall 382
Honolulu, HI 96822 (808) 956-8940
<https://manoa.hawaii.edu/eall/>

Share your Japanese Program news via social media!
Contact our social media director, Noriko Otsuka [HERE!](#)



全米日本語教育学会

American Association of Teachers of Japanese, Inc.

Campus Box 366

University of Colorado

Boulder, CO 80309-0366

